

経済レポート

景気ウォッチャー調査(東海地区:2023年6月)

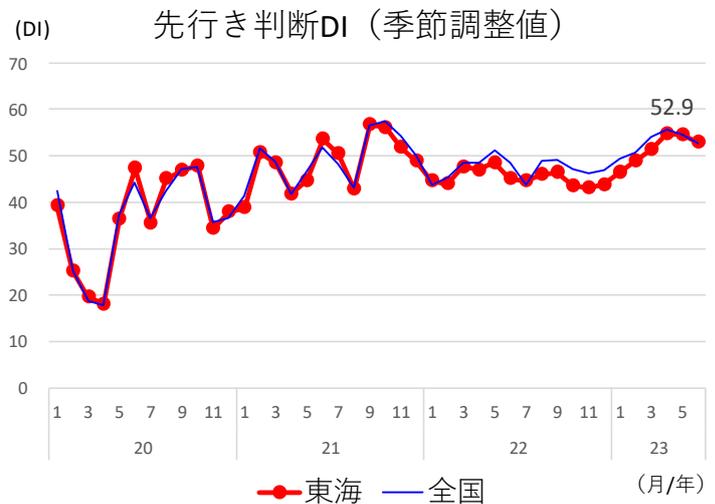
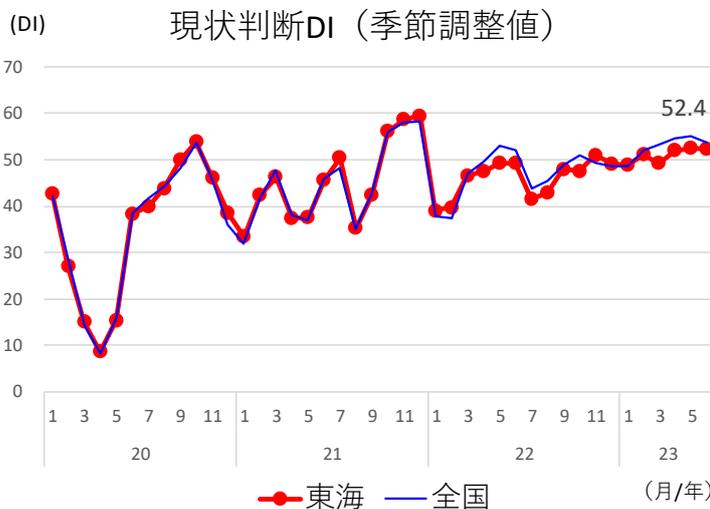
～現状判断、先行き判断ともに低下し、持ち直しの勢いは鈍化～

主任研究員 塚田裕昭

- 7月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の6月¹の

現状判断DI(季節調整値)は、前月差-0.1ポイントの52.4と3ヶ月ぶりに低下した。

先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-1.7ポイントの52.9と2ヶ月連続で低下した*。



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

景況感は持ち直している。先行きについては、人手不足や物価上昇を懸念しつつも、持ち直しが続くとみている。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、景況感は持ち直している。先行きについては、物価上昇の影響が懸念される一方、コロナ後の経済正常化への期待がみられる。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、緩やかに回復している。先行きについては、5類感染症への移行も終わり、改善テンポに一服感がみられるものの、緩やかな回復が続くとみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

「景気は、緩やかに回復している。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。」

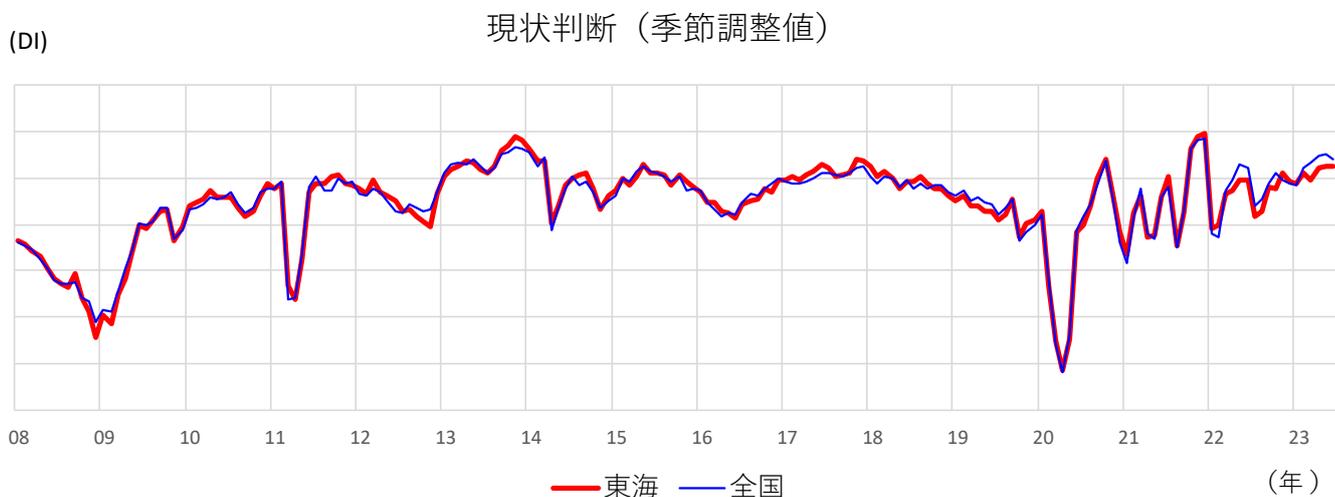
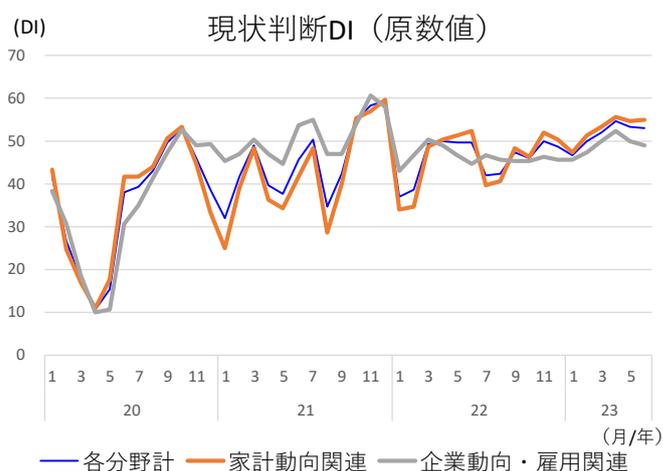
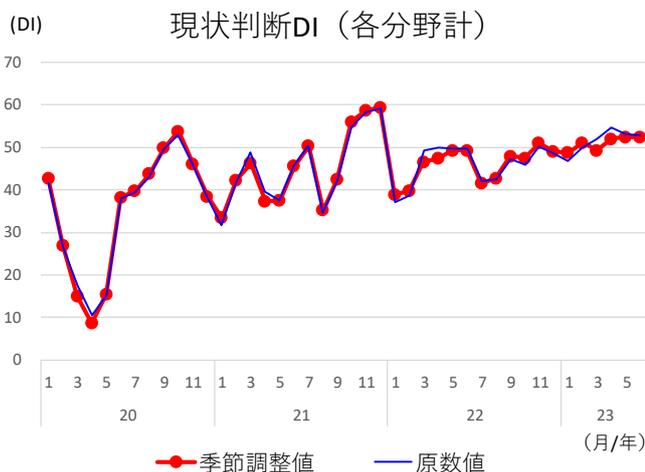
* 2023年8月10日訂正 以下の通り誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。
 正: 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-1.7ポイントの52.9と2ヶ月連続で低下した。
 誤: 先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-1.7ポイントの52.9と3ヶ月連続で低下した。

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1)DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差-0.1ポイントの52.4と3ヶ月前ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+0.2ポイントの54.9と2ヶ月前ぶりに上昇し、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同-1.0ポイントの49.0と2ヶ月連続で低下した。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は229、うち家計関連152、企業・雇用関連77。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) 現状判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

➤ 景況感の持ち直しが続いているが、持ち直しの勢いの鈍化を示唆するコメントも散見される。

◎	旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の増減はあるが、ほとんど意識することがなくなり、旅行申込みは新型コロナウイルス感染症発生前に戻った。ここに来て団体旅行の実施、計画も増えており、夏休みやお盆にかかわらず旅行は増加の一途をたどっている。
○	百貨店（販売担当）	・インバウンド需要は期待どおり増加し始め、中国、台湾の客が多く来店した。高額品も稼働し高単価傾向にある。物価高の影響も懸念したほどではなかった。
○	乗用車販売店（経営者）	・滞っていた新車が納車されるようになってきた。まだ注文不可の車種もあるが、半年くらいで納車できる車も増えてきたため、受注しやすくなった。
○	一般レストラン（経営者）	・特別に景気の上向きは感じないが、仕入価格が上昇しているため料金も上げざるを得ず、その結果、客単価が高くなっている。
□	スーパー（店員）	・引き続き値上げにより売上金額は前年を超えているが、売上数量は前年を割る状態が続いている。
□	乗用車販売店（従業員）	・半導体や部品供給の問題が一時的に緩和され、かなり納車が進んだ。しかし、現在でも人気車種は注文を受け付けておらず、バックオーダーの解消に努めている感覚である。
□	旅行代理店（経営者）	・3～4月は新型コロナウイルス感染症が収束して景気が良くなる雰囲気はあったが、5～6月には、回復が少し鈍った。
▲	百貨店（営業担当）	・屋内より屋外へ向かっている客の関心を、百貨店へ引き寄せる施策が必要である。

【企業動向・雇用関連】

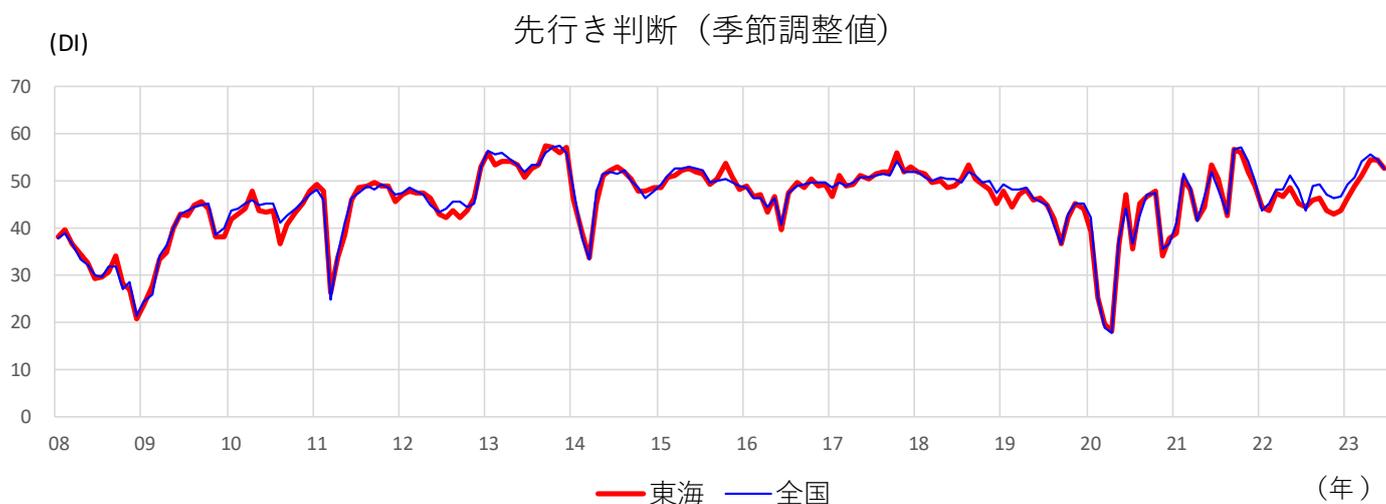
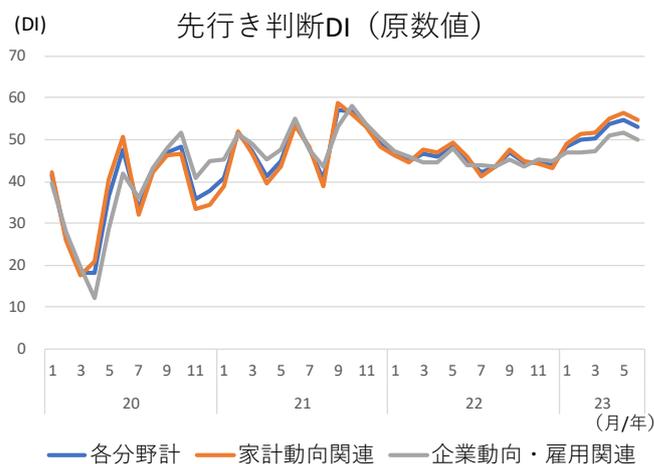
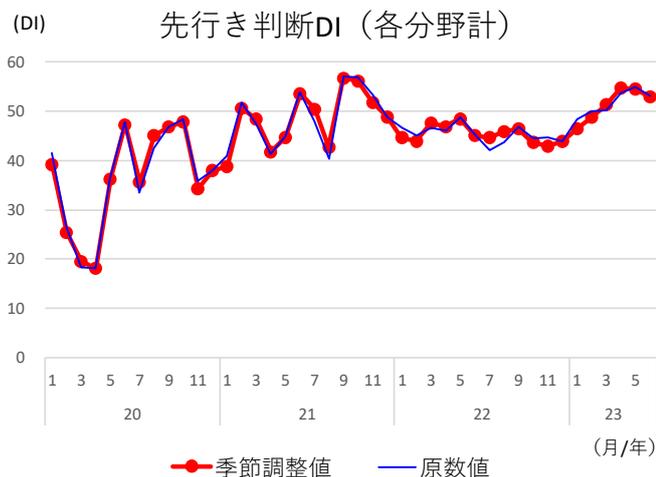
➤ 自社の業況について述べたコメントを見ると、受注や出荷が低調との指摘が散見され、家計動向関連に比べると、慎重な見方が多い。

○	窯業・土石製品製造業（社員）	・コロナ禍が収束後、良くなった客と悪くなった客の差が大きい。パソコン用ハードディスクやスマートフォン関連は急に動きが鈍くなり、かなりの在庫をかかえて非常に稼働率が下がっている。逆に車関係、特にハイブリッド用電池関係は部品供給の回復とともに2倍以上の生産量になっている。
□	化学工業（営業担当）	・半導体向け電子材料薬品の出荷は引き続き低調で、年内は低調を継続する見込みである。
□	金属製品製造業（従業員）	・仕事量は引き続き多く堅調だが、コスト転嫁が進まず収益的に懸念がある。
□	電気機械器具製造業（経営者）	・客先業界はお盆前の時期で設備投資が復活し、注文は入っているが、原価高騰を販売価格に転嫁できないことが問題で、苦しんでいる。
□	輸送業（エリア担当）	・景気が上向く気配が全くなく1年以上停滞している。毎月の取扱物量はこの1年ほど前年を下回っている一方、荷物単価は前年を上回っている。これは物価や人件費の高騰を反映しただけであって、経済が動いて荷物量が増加しているわけではない。経済そのものは停滞していて、上向く兆候は何もない。
□	人材派遣会社（営業担当）	・求人数は変化なく多い状況であるが、より条件の良い企業へ人材が流動しているため、採用条件や待遇が厳しい企業は採用難が続いている。
▲	金属製品製造業（経営者）	・受注量が減少し、引き合いも減少している。
▲	輸送業（経営者）	・住宅関連設備の荷動きが特に低調である。コロナ禍が下火になったときには回復傾向にあったが、ここに来て出荷が前年を10%ほど下回る客が増えてきた。工作機械部品メーカーの出荷も徐々に落ちてきており、特に輸出が減少傾向にある。
×	一般機械器具製造業（経営者）	・液晶、電子部品の生産が激減している。関連設備の調達状況が非常に悪い。

2. 景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

(1)DIの動向

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI(各分野計:季節調整値)は、前月差-1.7ポイントの52.9と2ヶ月連続で低下したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で上回った。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-1.7ポイントの54.6と6ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を5ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-1.7ポイントの50.0と4ヶ月ぶりに低下した。



(2) 先行き判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

➤ 総じて改善を見込むものの、現状程度の状況が続くとの見方が多い。人手不足、物価高などが懸念されている。

◎	都市型ホテル（営業担当）	・中国からのインバウンド需要を期待している。
○	商店街（代表者）	・大手の飲食店などは客足がかなり戻っているが、人手不足のためにフロアを全て開けられない状態が続いている。人手不足が解消できないと完全には戻らない。
□	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・ボーナスが出て購買意欲も高まり、物価が上昇しても購入してくれる方向にある。売上状況や客の様子は、3か月後も変わらない。
□	百貨店（経理担当）	・人出の回復に伴うレジャー・飲食関連消費の盛り上がりや、物品からサービスにも広がる物価高が打ち消すことで、景気は一旦踊り場を迎える。
□	スーパー（店員）	・菓子などは値段が変わらず量が減り、実質値上げとなっている。購入を控えることはないだろうが、売上が増えるわけでもない。
□	コンビニ（店長）	・商品の値上げはまだ続き、消費もやや抑制的に推移するとみる。ただし、新型コロナウイルスの新規感染者数が増えても以前のような措置を執ることはなく、夏季は人流も通常モードになる。スポーツやレジャーで人は動くため、キャンペーンや新商品の投入にやや期待が持てる。マイナス要素とプラス要素があり、先行きは変わらない。
□	衣料品専門店（店長）	・前年の新型コロナウイルス感染症がまん延した時期と比べれば、そのときほどの消費の落ち込みはないと思われるが、購入額については相変わらず慎重な動きが予想される。
□	乗用車販売店（経営者）	・新車の納期が相変わらず改善されていない。メーカーからは半年後くらいから改善されるとの報告を受けている。
□	一般レストラン（経営者）	・物価高騰により外食に使える金が減っているため、なかなか難しい。
□	旅行代理店（経営者）	・全国旅行支援が終わると日本人観光客が減る。その穴埋めにインバウンドが増えるが、土産品は今売られている物と売れ筋が変わる。

【企業動向・雇用関連】

➤ 現状程度、横ばいでの推移を見込むとのコメントが散見される。

□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・2～3か月先も受注量、販売量が増加するような明るい情報もなく、現状の景気で推移する。
□	窯業・土石製品製造業（社員）	・稼働率の低い客は、在庫消化に半年は掛かるとみているし、稼働率の高い客は、半年以上現在の繁忙が続くと聞いているため、しばらく現状のまま推移する。
□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから、先行きは変わらない。
□	電気機械器具製造業（経営者）	・客先からの見込みと予定表によると、受注量はほぼ横ばいで予定されている。
□	建設業（営業担当）	・売上金額は上がっても物価高や材料の価格高騰などが伴うため、収支を考えるとすぐに景気回復とはならない。前年や前々年のマイナス分を考慮すると、いきなり景気が良い状況にはならない。
□	輸送業（経営者）	・メーカーの生産計画が下方修正され始めている。
□	会計事務所（職員）	・円安や燃料価格の高騰が続いており、いつ収束するか見通しが立たないため、現状を維持する方向で日々の業務を行っている会社がほとんどである。
□	人材派遣会社（営業担当）	・求職者の減少により、待遇面の悪い企業は採用が厳しくなっている。
□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・一部業種の企業業績は上向いているが、一方で、地方では賃金はなかなか上がっておらず、景気上昇の底上げはまだである。
▲	食料品製造業（営業担当）	・受注量が前年比で減少し、増える要因が見つからない。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している(地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表)。
 - 「家計動向関連」: 商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」: 製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」: 人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
 - (2) 景気の先行きに対する判断(方向性)
 - (3) 景気の現状に対する判断(水準)
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて DI を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DI は 50 となるため、DI=50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所)内閣府 HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。